

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-142	21-409	独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 真栄里 仁 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
Online mutual-help intervention for reducing heavy alcohol use. 大量飲酒減少に対するオンライン自助グループ介入		
執筆者		
Haug NA, Morimoto EE, Lembke A.		
掲載誌		
J Addict Dis. 2020 Jul-Sep;38(3):241-249. doi: 10.1080/10550887.2020.1747331. Epub 2020 Apr 21.		
キーワード		PMID
アルコール, ハームリダクション, 自助グループ, オンライン介入		32314667
要 旨		
<p>オンライン介入は、通常の治療や支援グループを探すことができない、あるいは探す意志がない大量飲酒者も含めた幅広い集団にアプローチできる可能性がある。この研究では、オンラインソーシャルネットワークであり、且つハームリダクション、認知行動療法 (CBT)、再発防止 (リラプスプリベンション) に基づいている様々な自己指導型のアルコールインターネット介入について研究を行った。オンラインプログラムの参加者 (N = 57) は、過去の飲酒歴、現在の飲酒パターン、飲酒目標、オンライン活動への参加、および CBT 自習ツールを振り返って評価するアンケートに回答した。その結果、ベースラインとの比較では介入後は、1 週間あたりの飲酒量 (DPW)、1 日あたりの飲酒量 (DPD)、1 週間あたりの飲酒日数 (DDW) が有意に減少していることが示された。オンラインプログラムの利用時間が長いほど、DDW の減少が大きく、$rs(57) = .31, p = .02$ であった。一方、CBT 自習ツールの使用は DPW の減少と正の相関があり、$rs(57) = .37, p = .005$ であった。複数のオンライン活動 (すなわち、ソーシャルネットワーキング、電子メールグループ、チャットルーム、フォーラムでの議論) への参加により、DPW、$(F[1, 55]) = 8.55, p < .005$ および DDW $(F[1, 55]) = 7.12, p < .01$ で、より大きな減少が見られた。この結果から、サイバーコミュニティ、ソーシャルネットワーク、自習ツールの活用により、オンラインプログラムには大量飲酒者の飲酒量を減少させる可能性があることが示唆された。一方、参加者の 74% が依然としてハイリスクな飲酒をしており、害を減らす個別目標を持つオンラインの自助グループが、不注意に大量のアルコール使用を常態化する可能性も示唆された。</p>		